

授業科目名	舞踊実習 I ～VIII (バレエ)	担当 形態	実習		
		開講 学期	春・秋		
担当教員	小川 典子	単位	1	年次	1, 2, 3, 4

＝授業のテーマ及び到達目標＝

クラシックバレエの歴史を理解し、正確な知識と技術を身に付ける事を目標とする。総合芸術と言われる舞台の一端を担う一人として、技術向上と豊かな人間性を磨く事でより深い表現力と存在感を会得し、表現者としての才能と可能性を追求し習得する事を目的とする。また、以上のような専門的な事に加え、舞台人としてだけではなく、人としての基本的なマナーを身に付け、今後の人生に於いて役立てて行く事を目的とする。

＝履修の条件と学習の方法＝

日常生活の中で、表現者としての自分を意識し、常に幅広い視点を持つように努める。
体のラインが見える動き易い稽古着と、バレエシューズを用意する事。又、タオル類、水分補給の飲み物等、準備する。

＝授業の概要＝

クラシックバレエの基本的な動きを繰り返し学ぶ事により、クラシックバレエの歴史にも触れ、多くの舞踊・スポーツ等の基礎となると言われる正確な技術を習得する。その上で、表現者としての知識や舞台でのマナーを身につける。

＝授業計画＝

- 1 回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
- 2 回 ストレッチ・・・フロア上で、柔軟運動として定期的に行うことにより基礎的な動きへの準備とする。
- 3 回 2 回＋古典バレエの基本原則・・・基本となる立ち方、姿勢、バレエの5つからなる足の基本ポジションの習得。
- 4 回 3 回＋古典バレエの基本原則・・・基本となる4パターンの腕のポジション習得と美しく正しい体維持の基礎。
- 5 回 4 回＋基本的なポーズと動作・・・基本的な動きの組み合わせの訓練による美しい動きの為の基礎レッスン（初心）（その1）
- 6 回 4 回＋基本的なポーズと動作・・・基本的な動きの組み合わせの訓練による美しい動きの為の基礎レッスン（初心）（その2）
- 7 回 4 回＋基本的なポーズと動作・・・基本的な動きの組み合わせの訓練による美しい動きの為の基礎レッスン（初心）（その3）
- 8 回 主にバーを用いて行い、困難な姿勢を繰り返す事により動きを体に習慣付けていく。体の各部分の動きを組み合わせ、美しく強い姿勢を保つ訓練と、高度なテクニック習得の過程となる。（初級）（中級）（上級）
- 9 回 バランス感覚・・・上記の事に加え静止によってバランスや、瞬時に必要とされる体の動きに対応できる感覚を養う。（初級）及び（中級）（その1）
- 10 回 バランス感覚・・・上記の事に加え静止によってバランスや、瞬時に必要とされる体の動きに対応できる感覚を養う。（初級）及び（中級）（その2）
- 11 回 回転と跳躍・・・上記の事に加え、バーを離れ、センターワークに移る。バーレッスンの基本をもとに、より高度なテクニックを習得する。難易度は高くなるが各個人の条件に合わせて指導する。（初級）（中級）から（上級）へ（その1）
- 12 回 回転と跳躍・・・上記の事に加え、バーを離れ、センターワークに移る。バーレッスンの基本をもとに、より高度なテクニックを習得する。難易度は高くなるが各個人の条件に合わせて指導する。（初級）（中級）から（上級）へ（その2）

級)から上級)へ(その2)

13回 回転と跳躍…上記の事に加え、バーを離れ、センターワークに移る。バーレッスンの基本をもとに、より高度なテクニックを習得する。難易度は高くなるが各個人の条件に合わせて指導する。(初級)(中級)から(上級)へ(その3)

14回 音楽性と古典バレエの様式…バレエはイタリアの宮廷舞踊から誕生したと言われる。その当時から必要不可欠であった音楽を全過程に使用し、豊かな感性とリズム感を養う。さらに個々の踊りのみならず調和の心と舞踊様式を知る事により、舞台上でのマナーとルールも学ぶ。(その1)

15回 音楽性と古典バレエの様式…バレエはイタリアの宮廷舞踊から誕生したと言われる。その当時から必要不可欠であった音楽を全過程に使用し、豊かな感性とリズム感を養う。さらに個々の踊りのみならず調和の心と舞踊様式を知る事により、舞台上でのマナーとルールも学ぶ。(その2)

=テキスト(必携)=

特になし

=参考書・参考資料(必携)=

特になし

=成績評価の方法と評価の基準=

クラシックバレエ経験の有無は評価対象の1つではありますが、平常の学習状況、出席状況に加え、クラシックバレエの技術力及び、初心者でも体験者でも、授業回数を重ねる上での読解力と学習能力を総合的に評価する。

=その他=

特になし